

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	(株)宇宙SORA		
事業所名	グループホーム ハーモニーみずほ (1階)		
所在地	静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8		
自己評価作成日	平成26年2月4日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&jiyosvoCd=2294200544-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所		
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階		
訪問調査日	平成26年2月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を肌で感じて頂き、外気欲、散歩を楽しむ。年中行事を大切にして、全員に挨拶を交わし大家族となり和らげるホーム。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

歌集持参で玄関前に集合する恒例の外気浴は、馴染みの楽曲に利用者のハリのある声がかかります。ラジオ体操で体を動かす、歩くことで閉じこもった生活にさせない意識は少人数に分けての外出に繋がり、車椅子の人も一緒に外出しています。利用者が色付した事業所便りは回覧板を通じて40世帯に配布され、地域の新年会では便りを通じて会話が弾みました。「大正、昭和と時代背景も考慮しながら、認知症を理解し一人ひとりの今までの暮らしに沿って本人が穏やかに満足できる生活をしてほしいと願っています」と語る管理者は、本人も利用者となる時代を生きてきたとは思えないほど実践力があり、包容力に溢れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の玄関、フロアに掲示しており、毎朝の申し送りの前にスタッフ全員で唱和している。	年初めのハーモニー新聞には職員個々の想いを漢字一文字で掲載しており、理念のほかにも方向性を共有する取組みが設けられています。「大病をして生かされていることに気づいた」との職員の言葉には、管理者提唱の『助け合って仕事する』が日々浸透していることが覗えました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域自治会に入りお祭り、掃除に参加している。ホーム内新聞を毎月、町内会に回覧して頂いている。	側溝清掃、草取りに参加しての会話も弾み、自治会の一員としてとけ込んでいます。民生委員からも「読みやすい」との賛同を得られている。ハーモニー新聞の周知度も増し、地区の新年会では「あのハーモニー新聞の!？」と嬉しい声掛けもありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内新聞に生活状況を知らせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎月のミーティングを通し報告、意見をサービス向上に努めている。	年3~4回の実施に留まっていますが、地域包括支援センター職員、自治会長、防災関係者、民生委員と顔ぶれも豊富です。家族の希望は週末のため、現在日程を調整しています。会議では民生委員からS型デイサービスへの誘いもありハード面での課題を検討中です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には参加してもらえるよう協力を頂くようにしている。生活保護者には定期的に相談、アドバイスを受けている。	年度替わりには市担当者の運営推進会議出席もあります。支援を受けている利用者が半数いるため、他課窓口を訪問する機会が毎月あり、相談事があればスムーズな関わりがもてる状況にあります。介護相談員の訪問は特にお願いはしていません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束0宣言をしている。外へ出てしまう人には付添いをして。鍵はかけないようになっているが夜間は徘徊もある為、入口に鍵をする事はある。	夜間を除いて玄関は施錠していません。各階に落ち着かない利用者もあり、手薄時にはやむを得ず入口を施錠することもあります。不用意な言葉による感情の憤りは後を引くため「元の状態に戻す力がないならすべて肯定して認めてほしい」と、具体的な判断を伝えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	言葉使いは毎日のケアの中で気をつけている。毎月のミーティングで話し合いをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護を利用している人がいるが、内容については詳しく理解していない職員もいる為、学ぶ事も必要と思われる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、各家族に説明して同意を得ている。解約についても同様。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を行っている。面会時、職員、家族が話しをする機会を設けている。	お花見やバイキングでは家族にも早めに呼びかけ食事や外出先で一緒に過ごさせています。身体状況書を送付することで家族からも電話が入り、双方向のやりとりが確立しています。管理者がモットーとする『毎日必ず全員の利用者と会話する』が功奏して要望を聞くことができています。	家族アンケートの集まりが少ないため、あらためて声のない家族の意見収束について取組まれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングで意見を聞くようにしている。職員間で伝達が伝わるようノートを作りサインをするようにしている。	ミーティングは毎月3時間じっくり取組んでいて、話し合いを通して改善行動力が養われています。朝のミーティングも時間をかけて行い、利用者の様子を詳細に報告することが慣習となっています。現場での気づきは管理者に直接報告され、速やかな收拾が叶っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	体調不良等シフト表により、職員間の変更、有給を利用できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝の申し送り、毎月のミーティングで起こりえる事例の教育をしている。外部への研修は参加をさせたいが、できていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	定期的に地域のグループホームの連絡会には参加して、ホーム間の連絡を密にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行う本人、家族のアセスメントに力を入れ、安心できる体制を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に行う面談で、しっかりと話し合いを行いケアに活かせるようにしている。本人、家族、子供達にもお話しをお聞きする事がある。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と相談1ヶ月プランを作り、ニーズに合う対応をしている。(介護支援専門員→全職員)		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	毎日の生活の中でできる事は願っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出されたり足りない物を購入されたり、ご本人の食事の見守り、介助もされている。面会時に近況を伝えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベント、外出を企画してデパート、外食、その度、案内、連絡をさしあげている。	仏壇に花を手向ける人、慣れ親しんだハーモニカを大切に保管する人もあり、また食後の一服には事業所指定の喫煙場所へと職員と連れ立つ利用者もいます。年末には藁を購入して、お正月の注連飾りを作る習慣もつつがなく執りおこなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者、1人ひとりの言葉がけ、歌詞カードを作り一緒に歌う。散歩、体操をして支え合うようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて連絡をとり相談のり対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	それぞれの意向はつかめている。変化していく認知症状にも柔軟に対応している。	入居前には職員も同行し、在宅での暮らしぶりから利用者理解を深めています。聴取した情報から先ずは方向性を決めて一週間程度経過をみています。変化や気づきがあれば申し送りノートに記載し、検討のうえ本人の意向に沿った生活の実現を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話しの中で得た新しい情報はスタッフ間で共有している。ご家族の面会時にも聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝の申し送り、毎月のミーティングにて情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングにて定期的にモニタリングを行っている。職員、Drの意見を反映して、家族の意見も取り入れている。	居室担当制をとり、職員の責任感を醸成しています。担当医師からもらった質問書への回答も参考にして、毎月のミーティングでモニタリングとカンファレンスを行っています。全職員がミーティングで内容を確認し、ケアマネージャーがプラン化しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中で目立った言動等は記録して、申し送り時に伝えるようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月の身体状況への記入。家族が対応できない通院は付添いを行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の祭り事、清掃などに参加している。ホーム新聞を回覧板に入れて頂き情報を発信している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の月2回の往診。24時間対応をしている。全員の体調を記入して受診しやすい体制を整えている。	協力医は往診もあり夜間でも連絡に応じてくれ指示を仰げるため、全員が変更しています。歯科医は往診がありますが、他の専門医は家族にお願いしています。法人の看護師による週に一度の訪問は体調管理のアドバイスがもらえ、家族や職員にとっても安心となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看の際に状態を伝えている。緊急の際は直接、電話をして相談、指示を仰ぎ、適切な看護を受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はできるかぎりの情報を伝えている。入院中も面会に行き、看護師から情報を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し終末期のあり方については医師、看護師、スタッフ、家族共に話し合い、情報を共有してチーム支援をしている。	重度化に関する指針の書面をもって契約時に同意を得ています。ほとんどの家族が「ここで最期まで」と切望しており、法人の方針としても協力医と連携しできる限りの支援をする考えです。現在も看取りの状態となっている利用者があり、全職員で取組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的に行っていないが、対応についてはスタッフ間で口頭で話し合っている。医師の24時間対応。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練を年2回行い、避難経路、通報システムの確認を行っている。地域にはホーム新聞で呼びかけを行っている。	近所からの参加もあり、年2回実施しています。地震想定では掃き出し窓にリフォームしたベランダを避難経路としています。発生時間帯とシフトに応じた手順と役割が簡潔に掲示され、また近隣居住職員には夜間帯における応援を促し、地域防災訓練にも参加しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれに合う声かけにて対応している。	「生活歴や場面から一人ひとりを理解した声かけを」と指導しています。面会ではプライバシー保護にも配慮し、訪問者は予め家族の許可を得ています。男性が居室に入ることを拒む人には女性職員が対応し、トイレに入る時は「何かお手伝いすることはありませんか」と声かけしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を聞き希望に沿えるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを把握して希望に沿えるように対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしい服装で過ごしている。なじみの服も補修したりして大切に着れるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんどの人が食事を楽しみにしている。準備、片付けもできる人は行っている。	法人本部の管理栄養士が立てたメニューをアレンジして調理しています。お粥が常食となった人には、フードコートや喫茶店での外食にとろみ剤を持参しています。隣の寿司店から出前をお願いしたり、正月にはそれぞれの重箱におせちが用意され、ハレの日の食にも力を入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康記入表に記入しており、摂取量などは分かりやすくなっている。食事形態、量もそれぞれに合わせたものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれにあった方法で支援している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄のリズム、パターンを職員が把握して、できるかぎりトイレでの排泄ができるように支援している。	経済的な負担を軽減するために布パンツとパッドへの移行を試み、夜間においてもポータブルトイレや尿器を使った支援で工夫しています。自立の人も水分摂取量や排尿回数、量も計測して体調管理に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品、ヨーグルト、牛乳などを提供している。医師の指示により下剤を使用する場合もある。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日できる体制になっている。拒否される方がいる為、声かけなどを工夫をしている。	入口には温泉マークの表示もあり、また足のツボ図解も貼り出されて入浴を楽しもうとの意欲が伝わります。重度化して職員二人介助が必要になった利用者には日を定めて丁寧な入浴が成されており、入浴できない日も必ず足浴を行って清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれのペースで生活している。体調、体力によりベットで休んで頂く事がある。長時間の臥床は行わない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情に目を通し理解をしている。変更時には申し送りノートにて通知。服薬を最後まで確認。見守り、飲みやすい工夫をして誤薬のないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント、季節に応じた催しものを行ったりしている。煙草を吸われる人も禁止をする事なく、職員が付き添いその方に合った過ごし方をして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外に行きたい人を止める事なく同行している。陽気により散歩、外気浴をしている。イベントにて交流をはかっている。	気分転換のために戸外で過ごす機会を多くとり、月に一度はドライブ外出があります。コスモス畑、さかなセンターと日常の刺激を求め、初詣にも全員で出かけ一年の無事を祈願してきました。少人数に分けて外出することで、車椅子の人でも定期的な外出が実現しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失、物盗られ妄想などのトラブルを防ぐ為、ホームにて預かり、使う場合は一緒に買い物にでかける。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては自由である。電話等は家族の承諾を得ている人は自由に掛けて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は清潔に明るくスタッフが見守りをされている。共同で作った作品を掲示されている。	食事を終えた利用者はソファコーナーへと移動していて、くつろぎの空間が確保されています。廊下には昭和初期の静岡市役所など懐かしい風景写真が並び話材となっています。正月に頑張った書初めや花をモチーフにした切り抜き作品が生活に彩を添えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る場所を特定せずに自由に座って頂いている。体操、歌詞カードを活用して楽しい会話ができるようにされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される時になじみの物を持参して頂くようにしている。居室には本人の希望を取り入れるようにしている。	ベッド、チェストが備え付けられ、カーテンは好みに応じて防災の物を持参してもらっています。整理整頓意識を居室にも反映したい職員も気持ちを押さえ、利用者の好みに応じて装飾に協力しています。加湿器は使用せず、濡れタオルや洗濯物で乾燥に留意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現状維持に努めるようにしている。助言、見守り、環境整備に力を入れられる事はやって頂く。必要以上の支援は行わない。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2294200544		
法人名	(株)宇宙SORA		
事業所名	グループホーム みずほ (2階)		
所在地	静岡県静岡市駿河区みずほ2-5-8		
自己評価作成日	平成26年2月4日	評価結果市町村受理日	平成26年3月17日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action=kouhou_detail_2013_022_kami=true&jiyosyoCd=2294200544-00&PrefCd=22&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシビル6階
訪問調査日	平成26年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節を肌で感じて頂き、外気欲、散歩を楽しむ。年中行事を大切にして、全員に挨拶を交わし大家族となり和らげるホーム

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

歌集持参で玄関前に集合する恒例の外気浴は、馴染みの楽曲に利用者のハリのある声がかかります。ラジオ体操で体を動かす、歩くことで閉じこもった生活にさせない意識は少人数に分けての外出に繋がり、車椅子の人も一緒に外出しています。利用者が色付した事業所便りは回覧板を通じて40世帯に配布され、地域の新年会では便りを通じて会話が弾みました。「大正、昭和と時代背景も考慮しながら、認知症を理解し一人ひとりの今までの暮らしに沿って本人が穏やかに満足できる生活をしてほしいと願っています」と語る管理者は、本人も利用者となる時代を生きてきたとは思えないほど実践力があり、包容力に溢れています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社の理念を玄関、フロアに掲示しており、毎朝の申し送り時、全員にて唱和して実践につながるようにしてある。	年初めのハーモニー新聞には職員個々の想いを漢字一文字で掲載しており、理念のほかにも方向性を共有する取組みが設けられています。「大病をして生かされていることに気づいた」との職員の言葉には、管理者提唱の『助け合って仕事する』が日々浸透していることが覗えました。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域、自治会に入り、町内行事に参加している。ホーム内新聞を毎月、発行して町内に回覧して頂いている。	側溝清掃、草取りに参加しての会話も弾み、自治会の一員としてとけ込んでいます。民生委員からも「読みやすい」との賛同を得られている。ハーモニー新聞の周知度も増し、地区の新年会では「あのハーモニー新聞の!？」と嬉しい声掛けもありました。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ホーム内新聞に生活状況を知らせて頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ミーティングを通し報告、意見をサービス向上に活かしている。	年3~4回の実施に留まっていますが、地域包括支援センター職員、自治会長、防災関係者、民生委員と顔ぶれも豊富です。家族の希望は週末のため、現在日程を調整しています。会議では民生委員からS型デイサービスへの誘いもありハード面での課題を検討中です。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	推進会議の案内、参加をお願いしている。 生活保護を受けている利用者に対しては定期的に相談、アドバイスを受けている。	年度替わりには市担当者の運営推進会議出席もあります。支援を受けている利用者が半数いるため、他課窓口を訪問する機会が毎月あり、相談事があればスムーズな関わりがもてる状況にあります。介護相談員の訪問は特にお願いはしていません。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束宣言をしている。 夜間帯、徘徊する人がいる為、居室内、鍵を閉める事はないが各階で入口を閉める事はある。	夜間を除いて玄関は施錠していません。各階に落ち着かない利用者もあり、手薄時にはやむを得ず入口を施錠することもあります。不用意な言葉による感情の憤りは後を引くため「元の状態に戻す力がないならすべて肯定して認めてほしい」と、具体的な判断を伝えています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミーティング時、時間を設け話しあって意識してケアする。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	利用している人がいる為、職員は理解していると思うが個々までは把握していない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時、ご家族様と相談で詰め合わせ十分説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会も集まりが悪く特定の人のみ面会時、会話する機会を設けている。	お花見やバイキングでは家族にも早めに呼びかけ食事や外出先で一緒に過ごさせています。身体状況書を送付することで家族からも電話が入り、双方向のやりとりが確立しています。管理者がモットーとする『毎日必ず全員の利用者と会話する』が功奏して要望を聞くことができています。	家族アンケートの集まりが少ないため、あらためて声のない家族の意見収束について取組まれることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	皆様の意見等を基にミーティングを開いている。伝達は各階にノートを作り、サインをもらうようにしている。	ミーティングは毎月3時間じっくり取組んでいて、話し合いを通して改善行動力が養われています。朝のミーティングも時間をかけて行い、利用者の様子を詳細に報告することが慣習となっています。現場での気づきは管理者に直接報告され、速やかな收拾が叶っています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	シフト表にそってやっているが、体調不良等、変更は有給を利用している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎朝、申し送り時、起きる事例はその度、教育、助言をしてミーティングにおいて、さらに分かりやすく指導している。外部研修はスタッフ人数により参加させてやりたいが、今は参加できない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム事業者、会合に参加する同志がある。他のホーム間の連絡は蜜にしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に行う、本人、家族のアセスメントに力を注ぎ、会話の時間を多くとり、安心できる時間を整える。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に面談を通して話し合いホーム内の案内、同居者、子供達にもお話を聞く事としている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と話し合い1ヶ月プランを作り、ニーズに合う対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で、できる仕事をして頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外出をして頂いたり、不足の物の購入、ご本人の食事介助、見守りをして頂いたり、その度、話し合いをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	イベントで企画書を作り、デパートや外食をして思い出を作るようにしている。又、家族参加も呼び掛けている。	仏壇に花を手向ける人、慣れ親しんだハーモニカを大切に保管する人もあり、また食後の一服には事業所指定の喫煙場所へと職員と連れ立つ利用者もいます。年末には藁を購入して、お正月の注連飾りを作る習慣もつつがなく執りおこなっています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	談笑の場を作り、体操、歌詞カードを作り一緒に歌う、散歩で支えあうようにしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去した家族(施設から施設)と必要に応じて連絡をとり対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	1人々の意向はつかめている。 変わっていく認知症状に柔軟に対応している。	入居前には職員も同行し、在宅での暮らしぶりから利用者理解を深めています。聴取した情報から先ずは方向性を決めて一週間程度経過をみています。変化や気づきがあれば申し送りノートに記載し、検討のうえ本人の意向に沿った生活の実現を図っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	話しの中で得た新しい情報はスタッフ間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ミーティング時1人々について話し合い現状維持に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで定期的にモニタリングをしている。職員、看護師、Drの意見をとりあげている。	居室担当制をとり、職員の責任感を醸成しています。担当医師からもらった質問書への回答も参考にして、毎月のミーティングでモニタリングとカンファレンスを行っています。全職員がミーティングで内容を確認し、ケアマネージャーがプラン化しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子で目立った言動、行動等をはつきり記録して申し送り、ミーティングに伝える。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎月の身体状況への記入、郵送している。 家族が対応できない通院には付き添いをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要に応じ連絡、相談をするようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医月2回の往診、24時間対応している。当日前に全員の体調を記入して受診しやすいようにしている。	協力医は往診もあり夜間でも連絡に応じてくれ指示を仰げるため、全員が変更しています。歯科医は往診がありますが、他の専門医は家族にお願いしています。法人の看護師による週に一度の訪問は体調管理のアドバイスがもらえ、家族や職員にとっても安心となっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪看の際にできるかぎりの状態を伝えている。緊急を要する時、電話指示を仰ぎ適切な看護が受けられるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時はできる限りの情報を伝え、家族にもしつかり情報を伝える。入院時の面会、看護師から情報を得て備えている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化し終末期のあり方は医師、看護師、家族共、指針にそって話し合い契約のかたちをとり、共有している。	重度化に関する指針の書面をもって契約時に同意を得ています。ほとんどの家族が「ここで最期まで」と切望しており、法人の方針としても協力医と連携しできる限りの支援をする考えです。現在も看取りの状態となっている利用者があり、全職員で取組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訓練は定期的にはやっていないが口頭であったり、マニュアル通りにやっている。医師の24時間対応。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	訓練は年2回やっているが、年々入居者の老いについていけず、介護者人数も不足しているため、地域の協力体制を築くよう努めている。	近所からの参加もあり、年2回実施しています。地震想定では掃き出し窓にリフォームしたベランダを避難経路としています。発生時間帯とシフトに応じた手順と役割が簡潔に掲示され、また近隣居住職員には夜間帯における応援を促し、地域防災訓練にも参加しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	それぞれに合う声かけに努めている。「ちゃん」呼ばわりはしないようにしているが以前より○○ちゃんと呼ばれていた人はそのままにしてある。	「生活歴や場面から一人ひとりを理解した声かけを」と指導しています。面会ではプライバシー保護にも配慮し、訪問者は予め家族の許可を得ています。男性が居室に入ることを拒む人には女性職員が対応し、トイレに入る時は「何かお手伝いすることはありませんか」と声かけしています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	話を聞き希望に沿うようにしてある。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	それぞれのペースを把握して希望に沿えるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時に着衣は自身で選んでもらうよう助言している。なじみのある服の補修をして大切に着れるようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ほとんどの人が食事を楽しみにしている為、盛り方はその人に合った食事形態に努めている。準備、片付け、野菜の皮むき、味をみて頂く。	法人本部の管理栄養士が立てたメニューをアレンジして調理しています。お粥が常食となった人には、フードコートや喫茶店での外食にとろみ剤を持参しています。隣の寿司店から出前をお願いしたり、正月にはそれぞれの重箱におせちが用意され、ハレの日の食にも力を入れています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	健康記入表に記入、摂取量(水分含)など分かりやすくなっている。食事形態、量も合ったものを提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	それぞれに合った方法で支援。義歯消毒は夜のみ預かり実行している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿、排便チェック表を作り、誘導、声かけを実施してできる限りトイレで排泄できるよう支援している。	経済的な負担を軽減するために布パンツとパッドへの移行を試み、夜間においてもポータブルトイレや尿器を使った支援で工夫しています。自立の人も水分摂取量や排尿回数、量も計測して体調管理に配慮しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維の多い食品、ヨーグルト、早朝の冷水、個々に応じた予防をしているが、-3日にて医師の指示により下剤を服用している人もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日入れる体制になっている。健康状態、バイタル測定をしっかりと確立している。時間帯は午後と決めてある。入浴拒否が多く苦慮している。又、入浴しない人は足浴に努めている。	入口には温泉マークの表示もあり、また足のツボ図解も貼り出されて入浴を楽しもうとの意欲が伝わります。重度化して職員二人介助が必要になった利用者には日を定めて丁寧な入浴が成されており、入浴できない日も必ず足浴を行って清潔を保っています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	その方のペースで生活している。休みたい人の訴えには臥床、長時間の臥床はさけている。常にその方の体調、体力を考える。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の確認の自覚、変更時には申し送りノートに通知、薬を預かり助言にて服用飲みやすいように工夫、服薬後の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベント、外に出る(徘徊)止める事なく寄り添い歩く。体を動かす事を第一とする。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	陽気により外へ散歩、外気浴をする。イベントを企画してデパートに行き、他の人達と交流をはかる。	気分転換のために戸外で過ごす機会を多くとり、月に一度はドライブ外出があります。コスモス畑、さかなセンターと日常の刺激を求め、初詣にも全員で出かけて一年の無事を祈願してきました。少人数に分けて外出することで、車椅子の人でも定期的な外出が実現しています。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失、物盗られ妄想のトラブルの原因を取り除きたくホームで全部預かり必要時、同行、購入する。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙に関しては自由であるが字を書くのが面倒か書きたがらない。家族、電話可の人には変わって電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の場所は清潔に心がけ常にスタッフが見守り、共に行動、共に作った作品の掲示をする。	食事を終えた利用者はソファコーナーへと移動していて、くつろぎの空間が確保されています。廊下には昭和初期の静岡市役所など懐かしい風景写真が並び話材となっています。正月に頑張った書初めや花をモチーフにした切り抜き作品が生活に彩を添えています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	座る位置を特定せず好きな場所に座って頂き、歌詞カードを活用して歌ったりお茶を飲むようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時、なじみの物を持って頂いたが、今は興味なく雑になっている。居室担当者を決めて工夫するようにしているが実践されず苦慮している。	ベッド、チェストが備え付けられ、カーテンは好みに応じて防災の物を持参してもらっています。整理整頓意識を居室にも反映したい職員も気持ちを押しさえ、利用者の好みに応じて装飾に協力しています。加湿器は使用せず、濡れタオルや洗濯物で乾燥に留意しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	現状維持に努めている。体操を通して廊下内の歩行練習、自分でできるかできないか助言、見守りを通して必要以上の支援にらぬよう自分でやって頂く。		